

ニーズの高まる国際看護

—学生のCross-sectional Studyによる分析

著者:村田 直己

所属:広島国際大学看護学部看護学科

(西川 まり子ゼミ)

目次

- I : はじめに
- II : 研究方法
- III : 結果
- IV : 考察
- V : 結論
- VI : 引用文献

I はじめに

背景

- ・ 日本は経済連携協定（EPA）により、インドネシアやフィリピンから多くの看護候補生を受け入れている。
- ・ 日本における外国人登録者数は全人口の1.7%に相当する。
- ・ 国際開発機構（JICA）は青年海外協力隊の派遣など、国際開発協力を行っている。

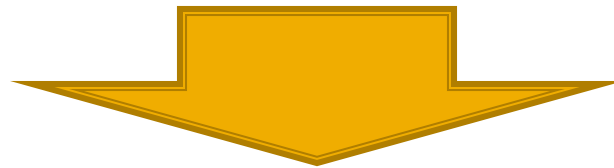
そんな中

2009年年度から看護基礎教育のカリキュラムにおいて、「国際社会において広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考える」が組み込まれた。

I はじめに(続)

目的

- ・ 筆者はカリキュラム編成後の学生の国際看護に関する意識調査に着目した。
- ・ 「国際看護学」に関する研究は稀少である。



そこで看護学生を対象としてアンケート調査を行うことで国際看護に対する学生の現状と、今後の学習の必要性を明らかにする。

Ⅱ 研究方法

- ・ 調査対象
A大学の看護学生469名（1年 131, 2年 123, 3年 122, 4年93）
有効回答率は100%.
- ・ 調査期間:2012年5月12日～2012年5月23日.
- ・ 研究期間:2012年4月1日～2012年10月23日.

Ⅱ 研究方法(続)

- ・ 調査票

国際看護に関する文献レビュー等を参考に本研究用に開発.

- ・ 分析

数字は統計ソフトJMP9. 0.

自由記述はText Mining Studio4. 1.

- ・ 倫理的配慮

無記名, 任意, 回収ボックスへの提出により個人が特定されないこと, 本研究にのみ使用することを文書で説明し, 回答を持って承諾を得られたものとした. また, 本研究は成績に全く関与しないことを説明したうえで実施した.

Ⅲ:結果

国際看護への興味と内容
国際看護のイメージ
国際看護の受講希望と理由

自由記述:評判分析

係り受け頻度分析

対応バブル分析

Ⅲ 結果 国際看護への興味と内容，受講希望

項目	学生 n	n=469	(%)
興味の有無			
ある		100	(21)
どちらかといえばある		200	(43)
どちらかといえばない		115	(25)
ない		52	(11)
無回答		2	
興味の内容※			
発展途上国における看護協力		164	(55)
先進国における看護協力やシステム		155	(51)
災害について		96	(32)
国内在留外国人に対する医療における看護		69	(23)
海外の感染症について		64	(21)
海外の在留邦人の医療における看護		43	(14)
国際看護に関する授業の受講希望			
ある		113	(24)
わからない		246	(52)
ない		110	(23)

※興味のある学生のみを対象 n = 300 複数回答可

Ⅲ 結果(続)

国際看護への興味と内容, 受講希望

- ・ 興味の有無

ある21%，どちらかといえはある43%，どちらかといえはない25%，ない11%.

ある，どちらかといえはある割合が6割であった.

- ・ 国際看護に関する授業の受講希望

ある24%，わからない52%，ない23%であった.

Ⅲ 結果(続)

国際看護への興味と内容, 受講希望

・ 興味の内容

発展途上国における看護協力	55%
先進国における看護協力やシステム	51%
災害について	32%
国内在留外国人に対する看護	23%
海外の感染症について	64%
海外の在留邦人の医療における看護	14%

Ⅲ 結果(続)

国際看護への興味と内容

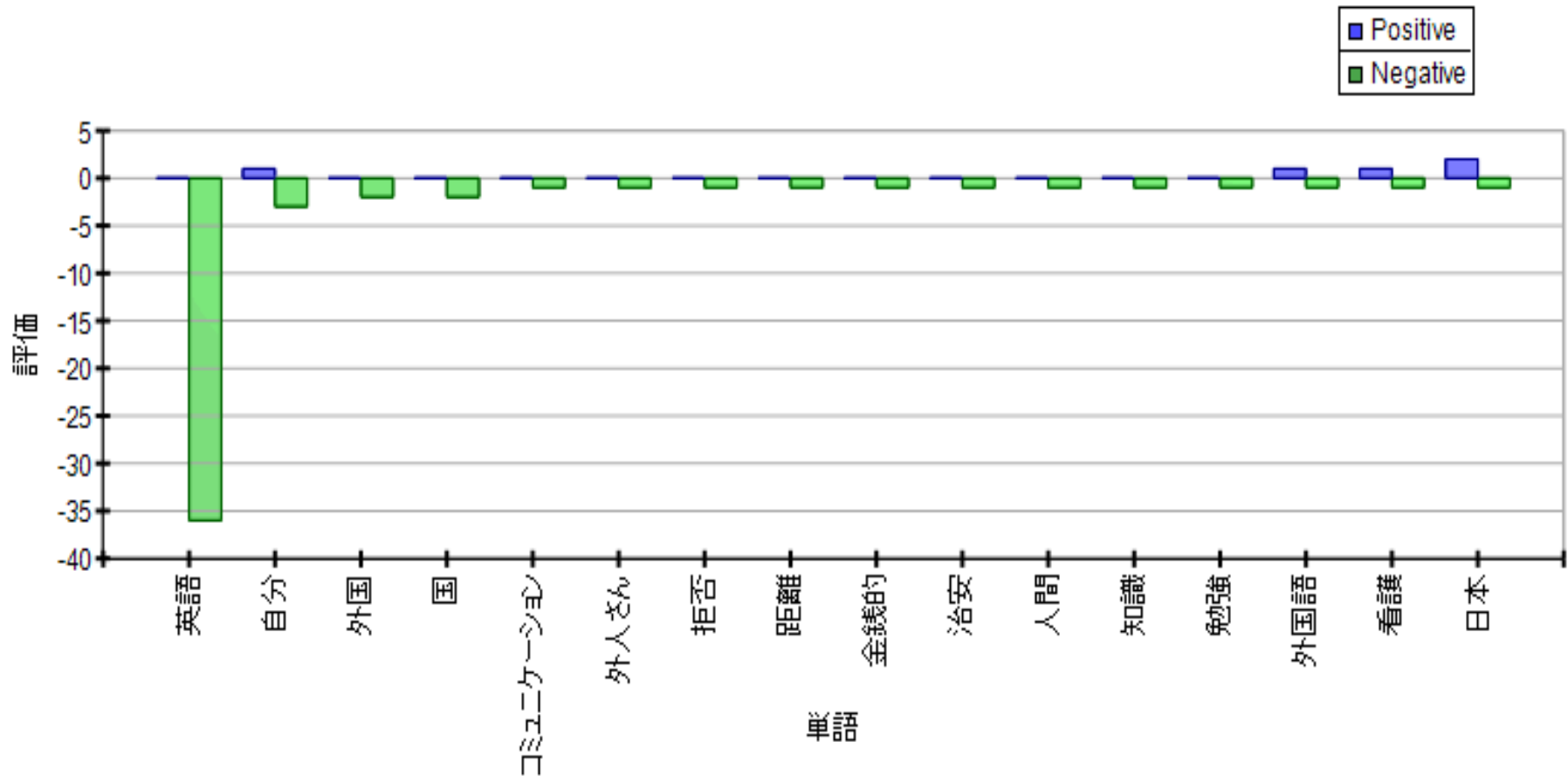
Text Minig Studio4.0を用いての分析

- ・ 質問内容
「興味がない理由を教えてください」
- ・ 興味がない，どちらかといえば興味がないと回答した人を対象に評判分析を行った。
- ・ 自由記述の基本情報は，平均文長（文字数）6.4，平均行長（文字数）6.8，総行数469，総分数498，単語種別数188，述べ単語数869であった。

Ⅲ 結果(続)

国際看護への興味と内容

Text Minig Studio4.0を用いての分析



Ⅲ 結果(続) 国際看護への興味と内容

Text Minig Studio4.0を用いての分析

- ・ 「英語」という単語が大きく表れており顕著.
- ・ 「英語がしゃべれないから」「英語が必要だから」という意見が反映されている.

Ⅲ 結果(続)

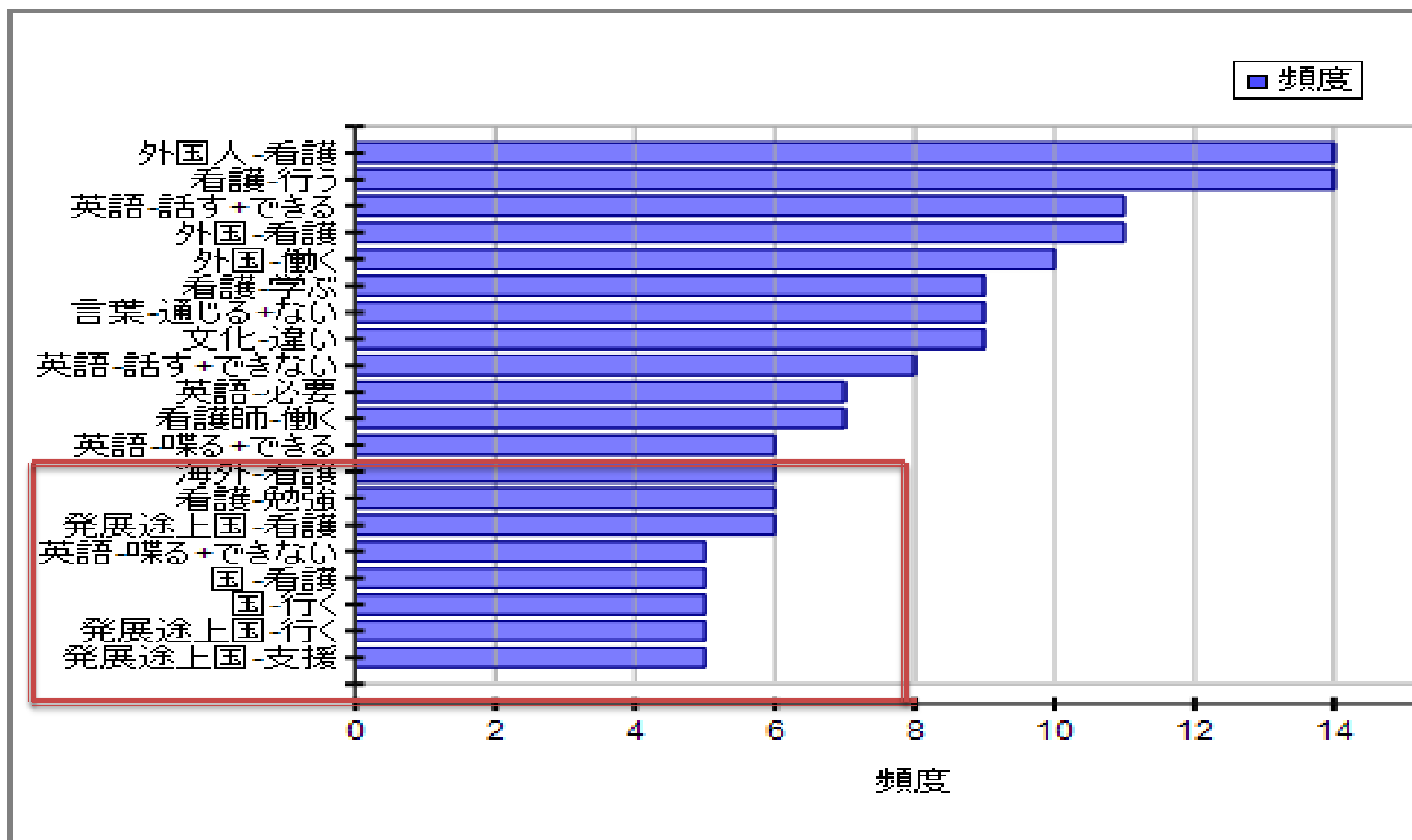
国際看護のイメージ

Text Mining Studio4.0を用いての分析

- ・ 質問内容
「国際看護と聞いてあなたのイメージを自由に書いてください」
- ・ 対象は全員.
- ・ 係り受け頻度分析と対応バブル分析を行った.
- ・ 自由記述の基本情報は、平均文長（文字数）8.6，平均行長（文字数）12.2，総行数469，総文数663，単語種別数555，述ベ単語数2204であった.

Ⅲ 結果(続) 国際看護のイメージ

Text Mining Studio4.0を用いての分析



Ⅲ 結果(続) 国際看護のイメージ

Text Mining Studio4.0を用いての分析

- ・ 外国人—看護, 外国—看護, 外国—働くなどの出現頻度が多い結果であった。
- ・ □で示すように発展途上国—看護, 発展途上国—行く, 発展途上国—支援なども示されている。
- ・ 言葉—通じる+ない, 英語—必要, 英語—話す+できないなどの言葉が表れている。

Ⅲ 結果(続) 国際看護のイメージ

Text Mining Studio4.0を用いての分析

- ・ 赤○で示すように1年生，黄○で示すように2～4年生のグループに分かれている。
- ・ 1年生は世界，外国，看護，学ぶ，などの単語があり，「世界各地に行って看護する」「外国の看護について学ぶ」などの意見が反映されている。
- ・ 2～4年生は文化，発展途上国，英語などの単語があり，「発展途上国での活動」「英語が喋れないといけない」「文化の違いがある」などの意見が反映されている。

Ⅲ 結果(続)

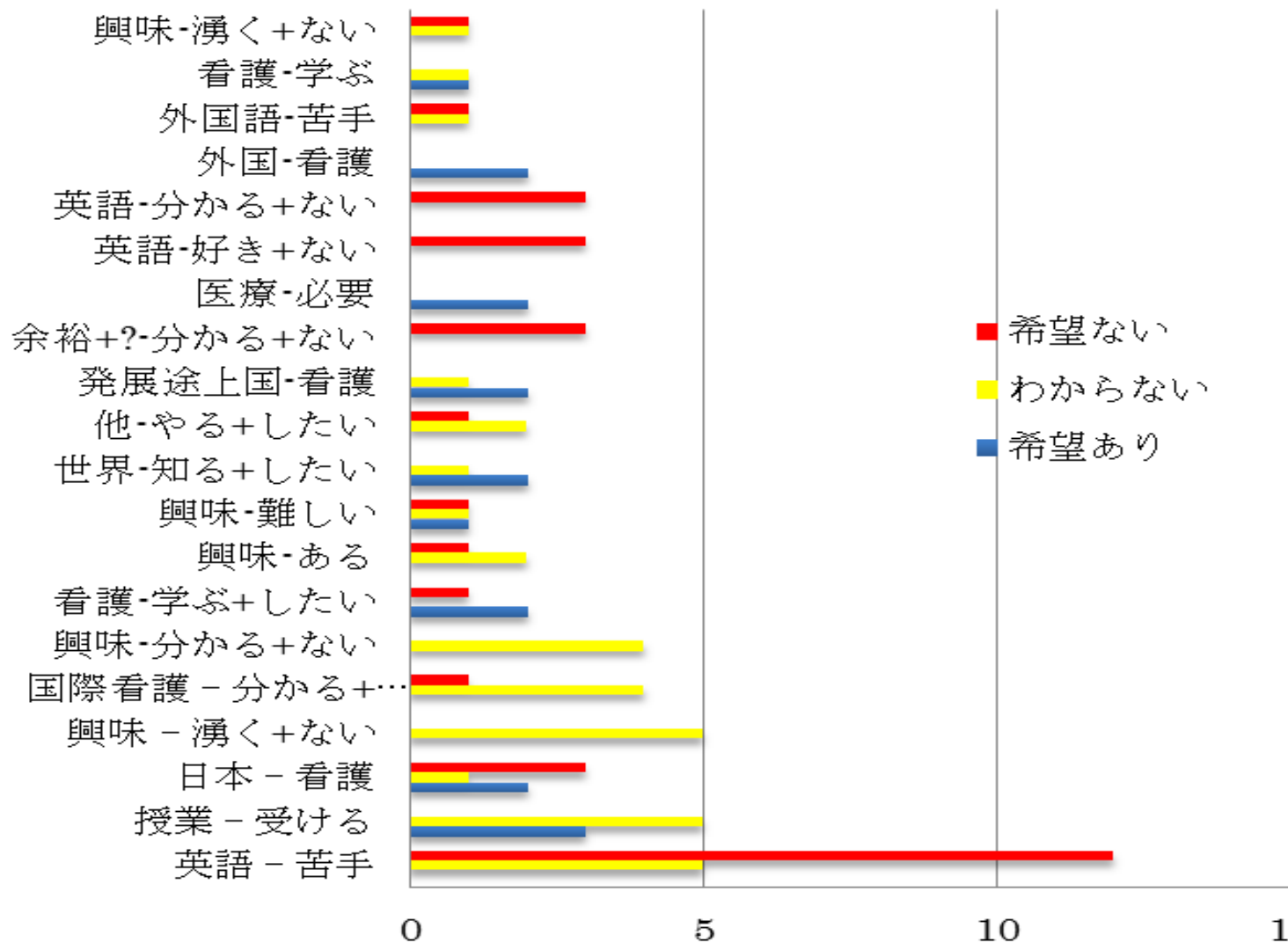
国際看護の今後の受講希望と理由 Text Minig Studio4.0を用いての分析

- ・ 質問内容
「（国際看護に関する授業の受講希望について）その理由を教えてください」
- ・ 対象は全員.
- ・ 係り受け頻度分析を行った.

自由記記述の基本情報は、平均文長（文字数）7.4，平均行数（文字数）8，総行数469，総文数508，単語種別数356，述べ単語数1395であった.

Ⅲ 結果(続) 国際看護の今後の受講希望と理由

Text Minig Studio4.0を用いての分析



Ⅲ 結果(続) 国際看護の今後の受講希望と理由 Text Minig Studio4.0を用いての分析

•希望ありと回答した人

授業＋受ける，世界＋知る＋したい，看護＋学ぶ＋したい，などの単語が見られ，「海外での看護を学びたい」「世界の看護について知りたい」という意見を反映している。

•わからないと回答した人

興味＋湧く＋ない，興味＋わかる＋ない，余裕＋わかる＋ないなどの単語が見られ，「興味がわからない」「余裕があるか分からない」などの意見を反映している。


•希望ないと回答した人

英語＋苦手，日本＋看護などの単語が見られ，「日本の看護をまずは学びたい」などの意見を反映している。

IV 考察

国際看護への興味と内容
国際看護のイメージ
国際看護の受講希望と理由
本研究の限界

IV 考察 国際看護への興味と内容

- ・ 英語に対しての苦手意識が、学生の国際看護への興味を消失させる要因となっている可能性あり。
 - ・ 発展途上国における看護活動や先進国における看護協力やシステムなど国外での活動に興味を示しており、国内在留外国人に対する医療における看護への興味が薄い。
- 
- ・ 国内在留外国人は増加しているため、日本における国際化の現状と国内在留外国人に対する看護について学ぶ必要性あり。
 - ・ 実際に学生に現実感を持ってもらうために臨床現場に出向き、外国人患者への具体的な対処方法を発想できるようにすることや、私たちが外国人と共に暮らしていることを認識する機会が必要。

IV 考察(続) 国際看護へのイメージ

- ・ 「これまで国際看護は海外における事象が主な対象とされてきた」 (田村, 2012) でも示されるように海外での看護というイメージが強く, 国際看護とは海外での活動というイメージが根付いている.
- ・ 1年生は入学して間もなく国際看護のイメージが抽象的であり, 2~4年生はより具体的になっている.
- ・ 全学年に共通して英語の重要性が語られていることや, 1年生に国際看護のイメージの抽象化が見られたが, ICNやプライマリヘルスケアの考え方では対象が外国人であろうと, 看護を疎かにすることはできない.

IV 考察(続) 国際看護の今後の受講希望と理由

- ・ わからない，希望ないと回答した人の理由として英語の重要性が述べられており，英語の必要性が国際看護を学ぶことへのカギを握っている。

しかし

- ・ 田村（2012）で在日外国人への看護のポイントとして，「心身を伝える」などの基本姿勢，文化の尊重，人権保護について示されているように，外国人に対する関わりで重要なのは外国語だけではない。

IV 考察(続) 本研究の限界

- ・ A大学の学生のみを対象とした研究であるため、全国の看護学生の結果を示すことができていない。
- ・ 次回の研究の課題としては、全国の看護学生の国際看護に対する意識調査を行い、現状を明らかにすることである。

V 結論

- ・ 学生の興味は海外での活動に向いており，国内在留外国人への興味が薄いことが明らかとなった。
- ・ 多くの学生が英語の必要性が，国際看護を学ぶことへのカギを握っている。
- ・ 1年生と2～4年生に大きなイメージの違いがみられたが，ICNなどの考えに基づけば，日本人も外国人も関係なくすべての人権を擁護することが重要である。

V 結論(続)

- ・ 外国人を対象とする際に重要なのは外国語だけでなく、田村（2012）は外国人への看護のポイントを述べている。このことが学生間で学べ知識として得られた時、国際看護に対する考え方は変化する。
- ・ 西川ら（2011）では看護学生時代に外国人を対象としたケアに当たっての知識を得ることの重要性を述べている。今後のより一層の国際化が進展をすることを考えると重要性は大きくなる。

VI 引用文献

法務省(2009). 平成20年末現在における外国人登録者統計について, 2012年10月13日,
引用 http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/press_090710-1_090710-1.html

株式会社数理システム(2012). Text Mining Studio, バージョン4.1

川野雅資, 柳澤理子(2011). 国際看護, 株式会社日本放射線技師会出版社, 東京.

近藤麻理, 小林米幸(2011). 看護職に国際的視点はなぜ必要なのか, 医学書院新聞, 2011年2月21日,
引用 http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA02917_01

厚生労働省(2007). 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書, 2012年7月15日,
引用 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>

日本看護協会(2008). ICN看護師の倫理綱領[2005年改訂版], 2012年7月15日,
引用 <http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/pdf/icncodejapanese2005.pdf>

Nishikawa, M., Kimura, M. & Akutagawa, k. (2011). Nursing Issues Relating to the Provision of Health Care to Foreigners in Japan, *the International Council of Nurses*, Valletta, Malta.

西川まり子, 木村誠子, 芥川静香, 津田右子, 井筒潤子, 久米絢弓(2011). Global Health and Nursing: a small country with high quality of health care in Malta, 広島国際大学看護学ジャーナル, 9(1), 53-59.

田村やよひ(2012). 国際看護学, メヂカルフレンド社, 東京.

財務省(2010). 包括的経済連携に関する基本方針, 2012年7月15日,
引用 <http://www.npu.go.jp/pdf/20101109/20101109.pdf>